

報告

地域医療に関わる地域別意見交換会

中央ブロック・深川市

常任理事・地域医療部長 伊藤 利道

本意見交換会は、当会から長瀬会長・役員が出向き、地元医師会役員・会員から地域医療の現状を直接伺うため、平成20年度から開催している。今年度は通算20回目を札幌市で、21回目を深川市で開催した。

【中央ブロック】

平成27年7月30日（木）午後7時より、北海道医師会館で開催した。出席者は札幌市医師会から今副会長、松村理事ほか2名、江別医師会から野呂会長、野村副会長、石狩医師会から立石会長、橋本副会長ほか1名、千歳医師会から佐藤会長、坂本副会長、恵庭市医師会から貝嶋副会長、北広島医師会から高坂理事、道医より長瀬会長ほか11名、オブザーバーとして北海道保健福祉部の荒田局長、大竹地域医療課長ほか1名であった。

地域医療にかかわる諸問題として笹本常任理事より「地域医療構想」について、小職より「道内で活動する地域の医療を支えるための取り組みを行っている団体」について紹介した。

続いて意見交換が行われたが、地域医療構想についての意見がほとんどであった。まず地域医療構想策定に関する調整会議の第1回目「西胆振保健医療福祉圏域連携推進会議」が7月29日に開かれたことが笹本常任理事より報告された。

道庁・大竹地域医療課長より、調整会議の構成メンバーは、北海道医療計画の圏域連携推進会議等をベースにして、各地域の医療関係者、自治体関係者等で構成されること、高度急性期、急性期の部分はかなり広い範囲で議論し、慢性期は地域に密着した議論が必要であること等の考えが説明された。

江別、石狩、千歳、恵庭市、北広島各医師会からは、高度急性期の医療は札幌市の医療機関に依存し

ているが、一般急性期の疾患は大部分を地元で診ているので、機械的に急性期病床を減らすことには反対であるとの意見があった。

長瀬会長より、「札幌圏域の調整は近隣地域との調整が必要で、特に難しいと考えている。道医もオブザーバーとして調整会議に出席したい。」との発言があった。

【深川市】

平成27年8月28日（金）午後6時半より、プラザホテル板倉で開催した。出席者は深川医師会から成田会長ほか12名、深川保健所より斎藤所長ほか1名、道医からは長瀬会長ほか9名、オブザーバーとして北海道より山谷副知事ほか4名の出席があった。

地域医療にかかわる諸問題として、笹本常任理事より「地域医療構想」「地域医療介護総合確保基金」、小熊副会長より「地域枠医師キャリア形成支援制度」、藤原副会長より「緊急臨時的医師派遣事業」、小職より「道内で活動する地域の医療を支えるための取り組みを行っている団体」について報告した。

続いて、藤澤深川医師会理事より「深川市の医療の現状」が報告された。深川市立病院が常勤医不足のため、出張医のみで対応している科は、整形外科・皮膚科・耳鼻咽喉科であり、平成27年度より小児科・産婦人科は入院・外来とも休止した。旭川医大と協力して医学生に対する奨学資金貸与制度を平成27年4月から設けたことが報告された。

松本深川医師会副会長より「深川医師会附属看護学院実習施設の確保」が報告された。深川市立病院の小児科診療体制の縮小に伴う産科診療の廃止により、平成27年4月から母子看護実習施設の確保が困難となったことが報告された。

山谷副知事から、「直接現場の声を聞いて地域医療の大変さを実感した。医師会と連携を取りながら、国に対する制度改正を要望して、地域の医療が守られる体制作りに取り組んでいきたいと考えている。」との感想が述べられた。

その後、懇親会が行われたが、女性医師の勤務環境改善（キャリア形成、産休対策等）、中堅医師のキャリア形成、新医師臨床研修制度の見直しの必要性、新専門医制度、整形外科・小児科・産婦人科のさまざまな問題点、医師会機能を高めて「居心地の良い医師会」を目指すべきなど活発な意見交換が行われた。

御出席いただいた医師会役員・会員、道庁、保健所の皆様に感謝申し上げます。



中央ブロックの様相



深川市の様相